②ウキ釣りスタイル

シモリや藻場などの狙い目を絞り込んでアプローチするならアジの動きをセーブすることもできるウキ釣りがおすすめです。混雑した釣り場でのオマツリを回避しやすい点、アタリのわかりやすさという点でもビギナーにおすすめといえます。

ウキ止め

位置をかえることでウキ下の長さ（タナ）を調整することができます。種類は糸とゴムの２タイプがあります（ゴムタイプは中通し竿のガイドを通らないこともあるので要注意）。

シモリ玉

ウキがウキ止めを通過しないようにするアイテムです。使用する道糸が通る穴径のもの選びましょう。その穴がテーパー状（先細り）になっているものは、細い方から道糸を通します。
ウキの足にあるカンにシモリペット（シモリ玉つきのスナップサルカン）を用いるときは不要です。

電気ウキ４～６号

朝夕のまづめどきや夜間などの活発に餌を追う暗い時間帯の釣りを想定し、１日を通して電気ウキを使用するのがおすすめです。春～初夏に出回ることもある20㌢クラスの生きアジ（15㌢クラスが理想）をしっかりと狙いのタナまで沈めるために必要な４～６号程度のオモリにマッチした浮力を選びましょう。
形状は、デップリしたタイプほど潮乗りがよく、細身のタイプほど海中へ入るときの抵抗が小さいという特徴があります。餌を食うことに夢中になったイカは違和感を覚えるほど神経質ではないため、潮乗り重視で選んでも問題ありません。

道糸ナイロン２～３号

しなやかで操作性のよいナイロンが基本です。２号を基準に、藻場やシモリ際などの障害物回りをタイトに釣るときは３号を使用しましょう。

磯竿２～３号５㍍前後

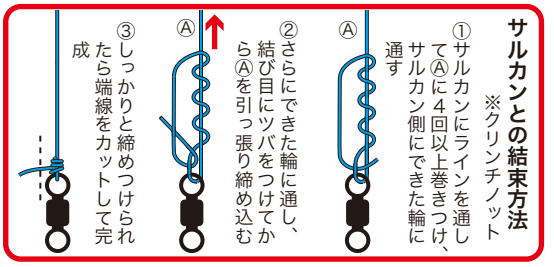
仕掛け＋生きアジの重みをしっかりと背負ってキャストできる２号以上の磯竿を使用します。また、アタリがあればイカバリを跳ね上げるために力強い合わせが必要であるため胴の強さも求められます。深ダナを狙うときはより強い合わせを入れるために３号クラスが要求されることもあります。長さは、遠投性を考慮すると５㍍クラスが標準的です。

ウキ止めゴム

仕掛けとウキがからまないようにするためのストッパーとしてヨウジで止めたゴム管をセットします（サルカンからの距離はウキの全長＋約５㌢）。

サルカンとの結束方法

※クリンチノット



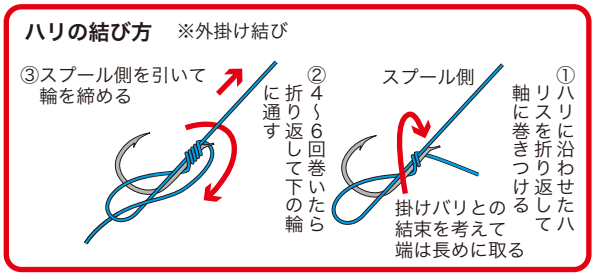
中通しオモリ３～6号

ウキのオモリ負荷に合わせるか、生きアジの重さを考慮してウキの号数より１号ほど軽いものを用います。形状は丸型、タル型など何でも構いません。

サルカン（スイベル）10～12号

道糸とハリスを結束するためのアイテムです。ヨリモドシとも呼ばれるように仕掛けのヨレを軽減できる効果があります。中通しオモリが抜けない大きさを選択しましょう。

ハリの結び方　※外掛け結び



ハリス：フロロ２～３号１㍍

根ズレなどの心配がないポイントでは２号、シモリや藻場などの障害物回りを狙うときは３号が基本です。

ハリスとハリは外掛け結びで接続

チヌバリ４～５号、伊勢尼６～７号

基本的にはヤエン釣りと同じですが、アジの鼻にハリを掛けることから抜けにくいネムリ型を使用するのがおすすめです。

スピニングリール3000番以上

２～３号の道糸を150㍍ほど巻けるサイズのリールを用意します。大型が期待できる時期には巻き取りの力が強い3000番クラスがおすすめです。

ハリを結束したときに出る余り糸にイカバリを結束（ハリとイカバリの距離は使用する生きアジの全長に合わせる）

イカ掛けバリＬ～LL

イカバリはターゲットのサイズに合わせて選びます。大型が期待できる初冬～春などは大きめのＬ～LLサイズがマッチします。